

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	帯広コア専門学校
設置者名	理事長 千葉 直樹

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業	高度情報システム科	夜・通信	1625	240	
	情報ビジネス科 (ICTプログラミングコース)	夜・通信	1085	160	
	情報ビジネス科 (ビジネスアプリケーションコース)	夜・通信	1190	160	
商業実務	医療ビジネス科	夜・通信	760	160	
教育・社会福祉	介護福祉士科	夜・通信	1965	160	
医療	歯科衛生士科	夜・通信	2785	240	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://www.core.ac.jp/obicore/>授業情報

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	帯広コア専門学校
設置者名	理事長 千葉 直樹

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<a href="http://www.core.ac.jp/obicore/情報公開">http://www.core.ac.jp/obicore/情報公開</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	帯広市副市長	2022.4.1～ 2024.3.31	地域における人材 育成アドバイス
非常勤	(株)コア代表取締役会長	2022.4.1～ 2024.3.31	経営アドバイス
非常勤	(株)クリエイティブ・トゥ エンティワン 代表取 締役社長	2022.4.1～ 2024.3.31	経営アドバイス
非常勤	十勝バス(株)代表取締役 社長	2022.4.1～ 2024.3.31	地域における人材 育成アドバイス
非常勤	都城デンタルコアカレ ッジ 事務長	2022.4.1～ 2024.3.31	eラーニング
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	帯広コア専門学校
設置者名	理事長 千葉 直樹

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>学科教員が教育課程について、最新の実務の知識・経験に基づく実践的な知識・技術等を教授するために改善案を作成する。</p> <p>教育課程編成委員会（7月～11月に2回開催）にて、改善案について委員より専門的立場からの意見を伺う。</p> <p>校内カリキュラム検討会議（12月、2月開催）で最終案を作成する。</p> <p>評議員会・理事会（3月）で承認後、4月に学校ホームページで公表する。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="http://www.core.ac.jp/obicore/">http://www.core.ac.jp/obicore/</a> 学生便覧
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科定期試験を実施する <ul style="list-style-type: none"> <li>歯科衛生士科は60点以上合格、他の学科は50点以上合格</li> </ul> </li> <li>・履修は、当該科目の授業時数の3分の2以上の出席で認定</li> <li>・評価の方法・基準（シラバスに記載）</li> </ul> <p>試験、日常の学習活動、学習態度、出席状況、各種提出物など、一切の教育活動を総合的に判断し点数化して、総合評価する。</p> <p>ア 評定Sは、総合評価が9割以上</p> <p>イ 評定Aは、総合評価が8割以上</p> <p>ウ 評定Bは、総合評価が7割以上</p> <p>エ 評定Cは、総合評価が6割以上</p> <p>オ 評定Dは、総合評価が5割以上</p> <p>歯科衛生士科は評定C以上、他の学科は評定D以上を履修認定する。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GPA科目評定(S・A・B・C・D)を点数化して、 (S=4, A=3, B=2, C=1, D=0)平均得点で分布する 各学科人数から下位1/4に相当する人数・点数を求め、各学科で平均得点と人数が明確になるよう度数で分布する</li> </ul>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p><a href="http://www.core.ac.jp/obicore/">http://www.core.ac.jp/obicore/</a>学生便覧</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進級学年・卒業学年において前期成績会議を9月に実施、卒業学年は後期成績会議及び卒業認定会議を2月に実施する。 進級学年は進級認定会議を3月に実施し認定する。</li> <li>・履修は、当該科目の授業時数の3分の2以上の出席をもって認定する。</li> <li>・学則 第13条第1項別表第1に定める各学科授業科目の単位を修得した者を卒業認定する。</li> </ul>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p><a href="http://www.core.ac.jp/obicore/">http://www.core.ac.jp/obicore/</a>学生便覧</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	帯広コア専門学校
設置者名	理事長 千葉 直樹

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.core.ac.jp/obicore/">http://www.core.ac.jp/obicore/</a> 財務情報/
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.core.ac.jp/obicore/">http://www.core.ac.jp/obicore/</a> 財務情報/
財産目録	<a href="http://www.core.ac.jp/obicore/">http://www.core.ac.jp/obicore/</a> 財務情報/
事業報告書	<a href="http://www.core.ac.jp/obicore/">http://www.core.ac.jp/obicore/</a> 財務情報/
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.core.ac.jp/obicore/">http://www.core.ac.jp/obicore/</a> 財務情報/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	高度情報システム科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2525 単位時間/単位	1140 単 位時間	615 単 位時間	770 単 位時間	時間	時間
		2525 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
45人		16人	0人	4人	19人	23人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>学科教員が教育課程について、最新の実務の知識・経験に基づく実践的な知識・技術等を教授するために改善案を作成する。</p> <p>教育課程編成委員会（7月～11月に2回開催）にて、改善案について委員より専門的立場からの意見を伺う。</p> <p>校内カリキュラム検討会議（12月、2月開催）で最終案を作成する。</p> <p>評議員会・理事会（3月）で承認後、4月に学校ホームページで公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科定期試験を実施する 歯科衛生士科は60点以上合格、他の学科は50点以上合格</li> <li>履修は、当該科目の授業時数の3分の2以上の出席で認定</li> <li>評価の方法・基準（シラバスに記載）</li> </ul> <p>試験、日常の学習活動、学習態度、出席状況、各種提出物など、一切の教育活動を総合的に判断し点数化して、総合評価する。</p> <p>ア 評定Sは、総合評価が9割以上</p>

イ 評定Aは、総合評価が8割以上 ウ 評定Bは、総合評価が7割以上 エ 評定Cは、総合評価が6割以上 オ 評定Dは、総合評価が5割以上
卒業・進級の認定基準
(概要) ・進級学年・卒業学年において前期成績会議を9月に実施、卒業学年は後期成績会議及び卒業認定会議を2月に実施する。 進級学年は進級認定会議を3月に実施し認定する。 ・履修は、当該科目の授業時数の3分の2以上の出席をもって認定する。 ・学則 第13条第1項別表第1に定める各学科授業科目の単位を修得した者を卒業認定する。
学修支援等
(概要) ・入学後に基礎学力リサーチを実施し、結果をカルテ化し学習効果を上げるアドバイスを実施 ・授業時間のほか検定・国試対策を実施 ・就職担当が履歴書、面接指導等で就職支援する

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1人 (100%)	人 ( %)	1人 ( 100%)	人 ( %)
(主な就職、業界等) (株)サトウ			
(就職指導内容) ・模擬面接 ・合同企業説明会参加 ・就職対策授業等			
(主な学修成果(資格・検定等)) ・情報処理技術者基本情報試験 ・C言語プログラミング能力認定試験 ・マイクロソフトオフィススペシャリスト Excel/Word エキパート			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		

(中退防止・中退者支援のための取組)  
 5月・10月 学科担当との個人面談、場合によっては看護師教員との面談  
 教務主任、校長との面談

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報ビジネス科 (ICTプログラミング コース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1715 単位時間/単位	780単 位時間	405単 位時間	530単 位時間	単位時 間	単位時 間
			1715 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人のうち数		10人	0人	4人	19人	23人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報ビジネス科 (ビジネスアプリケー ションコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700 単位時間/単位	1125単 位時間	165単 位時間	410単 位時間	単位時 間	単位時 間
			1700 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人のうち数		10人	0人	4人	15人	19人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 学科教員が教育課程について、最新の実務の知識・経験に基づく実践的な知識・ 技術等を教授するために改善案を作成する。 教育課程編成委員会 (7月～11月に2回開催) にて、改善案について委員よ り専門的立場からの意見を伺う。 校内カリキュラム検討会議 (12月、2月開催) で最終案を作成する。 評議員会・理事会 (3月) で承認後、4月に学校ホームページで公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) ・各学科定期試験を実施する 歯科衛生士科は60点以上合格、他の学科は50点以上合格 ・履修は、当該科目の授業時数の3分の2以上の出席で認定

<p>・評価の方法・基準（シラバスに記載）          試験、日常の学習活動、学習態度、出席状況、各種提出物など、一切の教育活動を総合的に判断し点数化して、総合評価する。          ア 評定Sは、総合評価が9割以上          イ 評定Aは、総合評価が8割以上          ウ 評定Bは、総合評価が7割以上          エ 評定Cは、総合評価が6割以上          オ 評定Dは、総合評価が5割以上</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進級学年・卒業学年において前期成績会議を9月に実施、卒業学年は後期成績会議及び卒業認定会議を2月に実施する。              進級学年は進級認定会議を3月に実施し認定する。</li> <li>・履修は、当該科目の授業時数の3分の2以上の出席をもって認定する。</li> <li>・学則 第13条第1項別表第1に定める各学科授業科目の単位を修得した者を卒業認定する。</li> </ul>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学後に基礎学力リサーチを実施し、結果をカルテ化し学習効果を上げるアドバイスを実施</li> <li>・授業時間のほか検定・国試対策を実施</li> <li>・就職担当が履歴書、面接指導等で就職支援する</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	1人 (9.1%)	8人 (72.7%)	2人 (18.2%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>(株)アウトソーシング、(株)ヒグマ、(株)ワールドソフト・イーエス          帯広電子(株)、堀口労務行政事務所</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬面接</li> <li>・合同企業説明会参加</li> <li>・就職対策授業等</li> </ul>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理基本情報試験、ITパスポート試験</li> <li>・日商簿記検定3級</li> <li>・FP技能検定</li> <li>・マイクロソフトオフィススペシャリスト Excel/Wordエキスパート</li> </ul>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状（ICT プログラミングコース）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12人	1人	8.3%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 5月・10月 学科担当との個人面談、場合によっては看護師教員との面談 教務主任との面談		

中途退学の現状（ビジネスアプリケーションコース）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 5月・10月 学科担当との個人面談、場合によっては看護師教員との面談 教務主任との面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		専門課程	介護福祉科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2115 単位時間/単位	1380 単位時間	255 単位時間	480 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		2115 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		24人	4人	3人	18人	21人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>学科教員が教育課程について、最新の実務の知識・経験に基づく実践的な知識・技術等を教授するために改善案を作成する。</p> <p>教育課程編成委員会（7月～11月に2回開催）にて、改善案について委員より専門的立場からの意見を伺う。</p> <p>校内カリキュラム検討会議（12月、2月開催）で最終案を作成する。</p> <p>評議員会・理事会（3月）で承認後、4月に学校ホームページで公表する。</p>
成績評価の基準・方法

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科定期試験を実施する 歯科衛生士科は60点以上合格、他の学科は50点以上合格</li> <li>履修は、当該科目の授業時数の3分の2以上の出席で認定</li> <li>評価の方法・基準（シラバスに記載）</li> </ul> <p>試験、日常の学習活動、学習態度、出席状況、各種提出物など、一切の教育活動を総合的に判断し点数化して、総合評価する。</p> <p>ア 評定Sは、総合評価が9割以上 イ 評定Aは、総合評価が8割以上 ウ 評定Bは、総合評価が7割以上 エ 評定Cは、総合評価が6割以上 オ 評定Dは、総合評価が5割以上</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進級学年・卒業学年において前期成績会議を9月に実施、卒業学年は後期成績会議及び卒業認定会議を2月に実施する。 進級学年は進級認定会議を3月に実施し認定する。</li> <li>履修は、当該科目の授業時数の3分の2以上の出席をもって認定する。</li> <li>学則 第13条第1項別表第1に定める各学科授業科目の単位を修得した者を卒業認定する。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学後に基礎学力リサーチを実施し、結果をカルテ化し学習効果を上げるアドバイスを実施</li> <li>授業時間のほか検定・国試対策を実施</li> <li>就職担当が履歴書、面接指導等で就職支援する</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (%)	5人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 慧誠会、帯広至心寮、ライフシップケア（札幌）、帯広慈恩の里			
(就職指導内容) ・模擬面接 ・合同企業説明会参加 ・就職対策授業等			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・介護福祉士国家試験受験資格 ・ケア・コミュニケーション検定 ・ケアクラーク技能認定試験			
(備考)（任意記載事項）介護福祉士国家試験 日本人100%合格			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14人	1人	7.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 5月・10月 学科担当との個人面談、場合によっては看護師教員との面談 教務主任との面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	医療ビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1870 単位時間/単位	1440単 位時間	150単 位時間	280単 位時間	1870単位時間	
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	18人	0人	3人	16人	19人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>学科教員が教育課程について、最新の実務の知識・経験に基づく実践的な知識・技術等を教授するために改善案を作成する。</p> <p>教育課程編成委員会 (7月～11月に2回開催) にて、改善案について委員より専門的立場からの意見を伺う。</p> <p>校内カリキュラム検討会議 (12月、2月開催) で最終案を作成する。</p> <p>評議員会・理事会 (3月) で承認後、4月に学校ホームページで公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科定期試験を実施する 歯科衛生士科は60点以上合格、他の学科は50点以上合格</li> <li>履修は、当該科目の授業時数の3分の2以上の出席で認定</li> <li>評価の方法・基準 (シラバスに記載)</li> </ul> <p>試験、日常の学習活動、学習態度、出席状況、各種提出物など、一切の教育活動を総合的に判断し点数化して、総合評価する。</p> <p>ア 評定Sは、総合評価が9割以上 イ 評定Aは、総合評価が8割以上 ウ 評定Bは、総合評価が7割以上 エ 評定Cは、総合評価が6割以上 オ 評定Dは、総合評価が5割以上</p>
卒業・進級の認定基準

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進級学年・卒業学年において前期成績会議を9月に実施、卒業学年は後期成績会議及び卒業認定会議を2月に実施する。</li> <li>進級学年は進級認定会議を3月に実施し認定する。</li> <li>・履修は、当該科目の授業時数の3分の2以上の出席をもって認定する。</li> <li>・学則 第13条第1項別表第1に定める各学科授業科目の単位を修得した者を卒業認定する。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学後に基礎学力リサーチを実施し、結果をカルテ化し学習効果を上げるアドバイスを実施</li> <li>・授業時間のほか検定・国試対策を実施</li> <li>・就職担当が履歴書、面接指導等で就職支援する</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (%)	11人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 十勝ヘルスケアクリニック、コトブキ調剤薬局、帯広徳洲会病院、ながい内科医院 帯広第一病院、北海道社会事業協会帯広病院、(有)なかむら薬局、(有)ミドリ調剤			
(就職指導内容) ・模擬面接 ・合同企業説明会参加 ・就職対策授業等			
(主な学修成果(資格・検定等)) ・医療事務技能審査試験 医科・歯科 ・調剤事務管理士技能認定試験 ・医師事務作業補助技能認定試験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	1人	4.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 5月・10月 学科担当との個人面談、場合によっては看護師教員との面談 教務主任との面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門課程	歯科衛生士科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2860 単位時間/単位	1110 単 位時間	270 単 位時間	1480 単 位時間	単位時 間	単位時 間
			2860 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		60人	0人	4人	44人	48人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>術等を教授するために改善案を作成する。</p> <p>教育課程編成委員会（7月～11月に2回開催）にて、改善案について委員より専門的立場からの意見を伺う。</p> <p>校内カリキュラム検討会議（12月、2月開催）で最終案を作成する。</p> <p>評議員会・理事会（3月）で承認後、4月に学校ホームページで公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科定期試験を実施する 歯科衛生士科は60点以上合格、他の学科は50点以上合格</li> <li>履修は、当該科目の授業時数の3分の2以上の出席で認定</li> <li>評価の方法・基準（シラバスに記載）</li> </ul> <p>試験、日常の学習活動、学習態度、出席状況、各種提出物など、一切の教育活動を総合的に判断し点数化して、総合評価する。</p> <p>ア 評定Sは、総合評価が9割以上 イ 評定Aは、総合評価が8割以上 ウ 評定Bは、総合評価が7割以上 エ 評定Cは、総合評価が6割以上</p> <p>歯科衛生士科は評定C以上、他の学科は評定D以上を履修認定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進級学年・卒業学年において前期成績会議を9月に実施、卒業学年は後期成績会議及び卒業認定会議を2月に実施する。 進級学年は進級認定会議を3月に実施し認定する。</li> <li>履修は、当該科目の授業時数の3分の2以上の出席をもって認定する。</li> <li>学則 第13条第1項別表第1に定める各学科授業科目の単位を修得した者を卒業認定する。</li> </ul>
学修支援等
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学後に基礎学力リサーチを実施し、結果をカルテ化し学習効果を上げるアドバイスを実施</li> <li>授業時間のほか検定・国試対策を実施</li> <li>就職担当が履歴書、面接指導等で就職支援する</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19人 (100%)	人 ( %)	19人 ( 100%)	人 ( %)
（主な就職、業界等） さない歯科クリニック、アルファ歯科矯正歯科医院、きたの歯科矯正歯科クリニック クオーレ歯科クリニック、さかの歯科、ヒロハヤシ歯科、加藤歯科医院 デンタルオフィスー大通公園歯科クリニック、斎藤歯科医院、三浦歯科医院 森歯科医院、水藤デンタルオフィス、竹田歯科クリニック、宝来中央歯科			
（就職指導内容） ・模擬面接 ・合同企業説明会参加 ・就職対策授業等			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・歯科衛生士国家試験受験資格 ・医療事務技能審査試験（歯科）			
（備考）（任意記載事項）R03年度歯科衛生士国家試験 合格率 100%			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
71人	6人	8.5%
（中途退学の主な理由） 進路変更、体調不良		
（中退防止・中退者支援のための取組） 5月・10月 学科担当との個人面談、場合によっては看護師教員との面談 教務主任との面談		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
高度情報システム科	150,000 円	460,000 円	342,000 円	その他 実習費、施設管理費、 放送大学 2 科目履修料金
情報ビジネス科	150,000 円	460,000 円	342,000 円	
介護福祉科	150,000 円	460,000 円	382,000 円	
医療ビジネス科	150,000 円	460,000 円	342,000 円	
歯科衛生士科	150,000 円	460,000 円	360,000 円	その他 実習費、施設管理費
修学支援 (任意記載事項)				
<b>学費支援制度</b> ・A0 入学 (入学金 5 万円免除) ・指定校推薦入学 (入学金 7 万 5 千円免除) ・新入生特待生 (入学金 15 万円免除、7 万 5 千円免除) ・ファミリー特別制度 (入学金 5 万円免除)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://www.core.ac.jp/obicore/">http://www.core.ac.jp/obicore/</a> 学校評価/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
評価項目 (1) 教育理念・目標 (2) 学校運営 (3) 教育活動 (4) 学修成果 (5) 学生支援 (6) 教育環境 (7) 学生の受入れ募集 (8) 財務 (9) 法令等の遵守 (10) 社会貢献・地域貢献 基本方針 ・学校の教職員自身が教育活動を常に見直し学校運営の状況を把握する ・早期に課題等を発見できる体制をつくる ・学校と保護者・地域をつないで相互の連携協力を深める ・学校評価について全教職員で共通理解を図り十分に意見交換を行い、学校改善に向けて取り組む		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
(有)マミィ 代表取締役	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日(1 年)	卒業生
(有)シミズワークス 代表	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日(1 年)	PTA
帯広北高等学校 校長	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日(1 年)	高校
帯広商工会議所 事務局長	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日(1 年)	団体
(株)ズコーシャ IT 事業部部長	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日(1 年)	企業
学校関係者評価結果の公表方法		

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<http://www.core.ac.jp/obicore/学校評価/>

第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<http://www.core.ac.jp/obicore/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	帯広コア専門学校
設置者名	理事長 千葉 直樹

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		30人	29人	29人
内 訳	第Ⅰ区分	17人	18人	
	第Ⅱ区分	-人	-人	
	第Ⅲ区分	-人	-人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				29人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人

(備考)
------

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	—人	—人	—人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	—人	—人	—人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。